

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000945		
法人名	有限会社Human-Effort		
事業所名	グループホーム自由の樹		
所在地	北海道小樽市最上1丁目36番4号		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム自由の樹は小樽の象徴である天狗山のふもとに位置しており、ホームの裏には川も流れており四季の移り変わりを体で感じ取る事が出来ます。地域交流も積極的に行っており近隣の保育園児や高校生が定期的にホームを訪れて歌、紙芝居、踊りの披露等を行っています。季節を感じとって頂ける様に年間を通じて行事の計画をして、春は花見見学、夏は家庭菜園や花火大会、秋は紅葉見学、冬は雪灯りの作成等を行っています。1年に1回は系列グループホームと合同で夏祭りも開催しています。職員の定着率も高く法人の理念でもある「介護とサービスの融合」の実践に向けて内部、外部研修を通じて管理者を中心に情報の共有を行い入居者が安心して生活が送れるように支援を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=tue&JigyosyoCd=0172000945-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0172000945-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 2 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者の一人が長い間老人福祉施設などで就労した経験から利用者「一人ひとりに関わったケアがしたい」「その人らしい生活が出来るように」との思いで、人情深い小樽の町に自由をコンセプトに4か所の事業所を展開しました。4事業所共、豊かな自然の中で四季の移り変わりを肌で感じ、尊厳のある安心した暮らしが実現されています。地域の中では近隣の住民に除雪や菜園の草むしりなどを手伝って頂いたり、知人が訪れてハーモニカ演奏で利用者も一緒に歌ったり、リクエストしたりと楽しい時間を過ごしています。また、雪灯りの雪像作りには高校生が加わり、雪像に灯すロウソクの灯りで夜には幻想的な雰囲気を醸し、利用者と職員で喜びを共有しています。地域とは自然に支えたり、支えられたりの関係から利用者の生活に潤いを与えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「皆と一緒に笑顔で」の他5項目からなる理念を掲げ入居者と職員が日々笑顔で過ごすことを大切にしている。ホーム内や職員のネームの裏に理念を記入しており常日頃確認が出来るようにしサービス担当者会議を通じて実践に繋げている。	理念は「皆と一緒に笑顔で」の他5項目を掲げ、各ユニット毎に話し合い、その実践に向けて取り組んでいます。ホーム長や管理者が毎日のケアの中で実践状況を確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流（小樽明峰高校、最上保育園など）が定期的にホームに来て下さり紙芝居、歌、踊りを披露して下さる。自分たちが作成した作品も頂きホームに飾っている。子供110番にも登録しており地域の一員となるように努めている。	近隣の保育園児や高校生が定期的に訪れ、歌や紙芝居、踊りなどを披露し、利用者の笑顔に触れています。また、住民から除雪の支援や菜園の野菜作りを教わる等、気軽にホームに立ち寄ってもらい介護や認知症の相談、啓発も行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な研修や実践から得た経験や情報を運営推進会議などを通じて地域の方に発信している。玄関には介護相談をいつでも受け入れる旨の掲示を行い、気軽にホームに立ち寄って頂けるような雰囲気づくりを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催しホームでの取り組みや行事の報告を行っている。地域包括職員、家族代表、町内会長、町内会婦人部長が参加され意見交換を行っている。家族には毎月発行する広報誌と一緒に議事録を添付して意見を伺いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は予め議題を用意し2か月毎に開催されています。ホームの取り組み状況を伝え地域資源の力を借りたり、参加者と知恵を出し合いながら支え、支えられる関係が構築されています。参加出来ない家族には議事録を届け意見を頂いています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、生活支援課、包括センター、消防署等市町村担当者と日常的に連絡を取り疑問点が生じた時には、その都度相談を行っている。運営推進会議にも参加して頂く事もある。	市介護保険課、生活支援課とは事業所の実情を伝え確認したり相談したり連携を密にし、サービスの向上に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会には積極的に参加をして内部研修を通じて全職員に周知を行い、質問・疑問がある場合にはその場で解決を行い身体拘束を行わないケアの実践を行っている。日中はホーム玄関を施錠することなくいつでも外出が出来るような支援を行っている。	身体拘束は「行わない」と職員全員で強い思いを持って取り組んでいます。「禁止の対象となる具体的な行為」と言葉の拘束についても確認し、ケアの中で不適切な言動があった場合にはその場で注意し合い、利用者の自由な暮らしを支えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加をして虐待の定義や種類の理解を全職員が共有出来るよう内部研修内で意見交換を行っている。定期的にケアの見直しをして虐待が見過ごされる事のないように注意をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加をして得た情報を職員間で共有できるよう勉強会にて周知をしている。実際に成年後見制度を利用されている家族からも意見を伺っている。制度について興味を持たれている方には管理者が資料を渡し情報の提供を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は契約に関する質問・疑問点を聞きだし分かりやすく説明をさせて頂き家族が重要事項、利用契約書の内容を十分に理解出来るよう説明して契約を行っている。希望される方にはホーム見学時や電話相談時にも説明を行っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の体調変化、言動の変化がある場合には家族に対して詳細にお伝えしている。面会時には家族と職員が情報交換を行い改善点がある場合にはサービス担当者会議などを通じて運営に反映させている。ホーム内に意見箱も設置している。	家族の来訪時には現状報告をすると共に家族の思いを聞く機会と捉え、言い易い関係作りに努めています。遠方の家族には電話やお手紙で報告し、面会時には利用者の部屋に宿泊できる体制も整えています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝代表者、管理者が出席するテレビ会議を通じて系列グループホームを含み日常的に疑問や意見がある場合には提案が出来るような環境作りになっており都度情報の共有を行ない運営に反映させている。	職員はホーム長や管理者に何時でも意見や提案を伝え、毎朝テレビ会議を通じて系列ホームと検討し、運営に反映しています。また、経験豊かな管理者が職員の疲労やストレスの要因について気を配り、労働環境を整えています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に内部研修を行い職員が情報を共有してスキルアップが行えるようにしている。資格や役職により給与の昇給が行われるようなキャリアパス制度を設けている。計画的に有給休暇の取得も行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1か月に1回ホーム内にて勉強会を開き情報の共有や意見交換を行っている。ケアの方向性を決め議事録を作成しシフト上参加出来ない職員も確認が行えるようにしている。外部研修にも積極的に参加をして情報の共有を図るようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互間研修などの活動を通じて他のホームの取り組みを参考にし情報交換を行い内部研修を通じてサービスの向上を行っている。系列グループホームとの関わりやグループホーム協議会主催の会合にも参加する取り組みを行っている。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、これからのホームでの生活をどのようにして行きたいかのニーズを聞き今までの生活習慣や生活背景を読み取り本人が安心出来るような生活を提供するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から電話や家族の都合に合わせた時間の中で面会を行い気軽に相談が出来る関係づくりをしている。入居後暫くの間は些細な情報でも家族に報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の生活状態をしっかりと把握してその都度対応が出来るよう心掛けている。入居時に出来る事を考え可能な限り実現している。保険証更新の代行手続きなどのサービスも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が無理なく出来る事を行って頂き終了後には労いと感謝の言葉を掛け共に実現できるよう努めている。人生の先輩であるという事を常に認識して敬意を持って接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者のホームでの生活状況を伝えいつでも面会に来て頂けるような体制づくりを行っている。行事などにも参加して頂けるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者と関係深い友人や知人とのつながりを大切に考え必要に応じて手紙や電話でのやり取りが出来るように配慮している。外出時には本人の馴染みの場所に行けるように買い物や馴染みの美容室に通う支援を行っている。	ボランティアによるハーモニカ演奏で利用者が一緒に歌ったりお茶を飲んだりなじみの交流をしています。兄弟、友人、知人のつながりが継続できるよう支援しています。個別には自宅や美容室に出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々入居者の性格や行動を把握して職員が関わりが良好に保てるような対応を行っている。話題の提供や嚙下体操への参加、ティータイム等を通じて共同生活を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も新たな居住場所が決まるまで病院や介護施設等と連携を行い可能な限りの協力を行っている。ホームに面会に来て下さる家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活やサービス担当者会議を通じて入居者の希望や意向の把握を行っている。訴えが困難の場合には家族の希望も考慮して本人の考えに沿うように検討を行っている。	利用者の大半が思いや意向を伝える事が出来ます。伝えにくい方には日常の関わりの中で片言や仕草、行動の中から本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活が継続出来るように居室内にも馴染みのある絵画を掲示したり仏壇を置いている。身の回りの物(食器や衣類など)についても新たに購入するのではなく現在使用している物を使っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の出来る行動、出来ない行動を見極めた後に潜在能力、残存機能を職員間で共有を行いその方にあった生活が送れるよう支援をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には担当者会議を開催し本人、家族、職員、医師の意見や要望を取り入れている。アセスメントやモニタリング作成時にも関係各位との連携を行い現状に合った物になるようにしている。	介護計画は職員全員で話し合い、意見や気づきを参考に本人や家族の意向を反映し、ケアマネージャーが最終的に作成しています。毎日のケアの中でプランと連動して記録され、モニタリングされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、入浴、排泄、バイタル値が一目でわかるように記録を残している。介護計画作成時にはそれらの情報を職員や関係者で共有しながら見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に住んでいる方や高齢の家族に対しては住所変更や介護保険の更新手続きの代行を行っている。病院受診時の送迎やレク行事などの外出支援を行っている。入居時には自宅からホームまでの引っ越しの支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児や高校生徒の交流を通じて穏やかな気分で生活して頂けるよう支援をしている。年に2回以上消防署職員立ち会いの元避難訓練を行い安全な暮らしの提供も行っている。警察署にも協力して頂いた事もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が現在利用している主治医との関わりが継続できるよう支援を行っている。継続が困難な時や希望がない場合には家族の同意を得ながら提携病院を紹介している。	かかりつけ医への継続には受診時の支援を行い、提携医は往診で対応しています。歯科や眼科、整形など適正な医療が受けられるように支援しています。受診後はその内容を記録し家族と共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回以上看護師職員がホームに訪問時には日常生活の状態の報告を行ない必要時には医師の指示の元受診や処置を行っている。入居者の急変時には夜間も含め訪問時以外でも連絡が取れる体制にしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会やお見舞いに伺い入居者の状態を医師・看護師と情報交換を行い少しでも早く退院が出来るよう努めている。日頃から情報の共有を行い安心して治療が受けれるような支援をしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の重度化や終末期対応が出来るように医師、看護師の助言を頂きながら研修を開きケアの統一を図り入居者や家族に安心して頂けるように方針の共有を職員間で行っている。契約時には実際の終末期の対応も家族に提供している。	重度化や終末期のあり方は指針に沿って開始時に説明し、状態に変化があった場合には家族や医師を含め話し合い、方向性を確認しています。職員は看取りの研修や学習を繰り返し、日々研鑽しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム看護師から助言をもらい定期的にAED使用方法や心肺蘇生などの研修を行い事故発生時に備えて訓練もしている。夜間など人員の不足が考えられる場合に備えてセコム使用方法も勉強している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼、夜を想定した火災や地震の訓練を年に2回以上行っている。訓練には地域住民の方にも参加して頂き避難誘導などの体験をして頂いている。日常から火災報知機やセコムの使用方法を職員が身につけるよう研修会を行っている。	避難訓練は定期的に行われ、2カ月毎に職員だけで色々な場面を設定し自主訓練を行っています。町内会との非常時の話し合いや連携も確認しています。2階非常階段や1階非常口の除雪もされており、災害時の備蓄品は完備されています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の人格尊重や希望を考慮しプライバシーを少しでも損ねないよう職員が心掛け言葉使いやケアの統一を行ない誇りの持った生活となるよう支援をしている。	一人ひとりを人生の先輩として敬い、尊厳を持って対応しています。呼び名は「さん」づけで声かけしていますが心を閉ざしている場合は家族と相談し「おばあちゃん」と呼ぶ場合もあります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的なケアや職員目線にならないよう入居者から思いや自己決定を聞きだし可能な限り希望に添えるよう体制作りをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にある安心したその人らしい生活を心がけ都合の良いケアを行うのではなく入居者のペースに合わせた生活が送れるよう入浴時間や食事内容の変更を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には入居者が衣類を自分で選んで頂けるようにしている。レク行事や外出時は化粧や普段着とは違う衣類の着用を行い気分転換を図っている。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげとりや食材の盛り付けなど声掛けを行い手伝って頂いている。食器や盛り付けにも工夫を行い食事が単調にならないように支援している。食後にはテーブル拭き、お盆拭きを職員と一緒にやっている。	食事は業者が献立を作成し、食材も調達しています。食事の流れの中で利用者の出来る事を一緒にを行い、3回の食事が楽しみに繋がる支援をしています。職員は食べこぼしなどさり気なく支援しつつ談笑しながら食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事量に合わせ声掛けや介助をし嚥下状態に合わせてミキサー食や刻み食を提供している。水分摂取はコーヒー、紅茶、ジュース類を用意して飽きのこない工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や起床時には口腔ケアの声掛けを行い自分で出来る入居者には行って頂いている。困難な方には部分介助を一緒に行い保清を保つようにしている。強い拒否がある方には時間をおいたり職員を交代して声掛けをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンに合わせ声掛けや誘導を行い排泄の失敗を減らしおむつの使用頻度の減少に繋がるように支援している。自立できる方は自尊心を傷つけないで見守りを行っている。	排泄に見守り支援が必要な利用者には排泄のパターンを把握し、仕草や行動からさり気ない誘導でトイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排泄間隔を記録、把握することにより医師の指示を仰ぎ下剤の服用や牛乳・繊維質の食べ物を摂取して頂く事により便秘の改善に努めている。体操や歩行練習なども行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特定の曜日や時間を決めず入居者の訴えや希望に添った入浴が出来るよう心掛けている。同性介助についても希望に添えるよう職員同士で連携を行っている。	入浴は利用者の身体状況や心情を察しながら週2回を目途に支援しています。入浴を拒む場合には言葉かけや対応の工夫でゆっくりとした関わりの中で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は可能な限り自由に行動をして頂き居室にいても寝る時間が増えることのないよう声掛けやフローアーに誘ったりして夜間に就寝出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用、目的・用法を把握できるよう処方箋の記録を残している。服薬後入居者に変化が見られた際には医師や看護師、薬剤師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1年を通じて定期的にレクリエーションを行い参加して頂いている。誕生日などは個人の生活歴を考慮して外出支援や楽しみの提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク行事や外出の希望がある場合には家族や職員にて外出支援を行っている。花見や紅葉見学を行い季節を感じて頂いたり近所にあるアイスクリーム屋に出かけたりして交流を図っている。	日常的な散歩や買い物に止まらず法人の福祉車両を利用し、市内見物や大型ショッピングセンターで買い物、外食、花見等で季節感を味わっています。個別の外出希望には家族の協力も得られています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には本人に金銭管理をして頂き外出時には職員同行の元支払購入を行っている。お正月には孫にお年玉を提供する利用者もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に家族、知人が住まれて面会や交流が少ない方は定期的に電話をして頂き気分転換が出来るような支援を行っている。定期的に手紙での交流も行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	喫煙所には空気洗浄機を設置して喫煙されない方にも配慮を行っている。毎日時間を決めて手すり、トイレ、洗面所などの清掃や消毒を行っている。繭玉や入居者が実際に作った作品を掲示して季節感を取り入れている。温度や湿度にも注意を行い確認している。	広くゆったりとした居間兼食堂には色彩豊かな手造りカレンダーが利用者の目線に合わせて掲示されています。手造り作品や絵画で暮らしの場が大人の空間になっています。夜には雪あかりのイベントで高校生と職員の手で作成した雪像にロウソクが灯され、居間の広い窓から幻想的な雰囲気を楽しみ、利用者の生活に潤いを与えています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同で使用する食堂、居間においても入居者一人一人が居心地の良い場所を提供している。居間にはテレビを設置して気の合った利用者同士が会話をしながら暮らせる空間を提供している。一人が好きなのは廊下の端にベンチを用意している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には以前の生活と違和感なく過ごせるよう家族からの情報を参考にして自分の自室に近づけるように絵画や仏壇・テレビなどを設置して居心地良く暮らせるような支援をしている。	ダンスはホーム側から提供されています。使い馴れたテーブルや椅子、テレビ、絵画、仏壇を持ち込み家族の写真をダンスの上に飾り、入居前の自室に近付け、安心して過ごせるように支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内に目印となるよう時計やカレンダーを設置して入居者の出来ること、分かることに活かしている。安全面を優先しながら自立した生活が送れるよう配慮している。			